

四谷大塚								
学習内容								
家庭学習 ポイント	第1回『和と差の文章題』、第2回『数と規則性(1)』、第3回『平面図形(1)』までが2月の学習内容です。総復習ということで、1回の授業で扱う内容が多岐にわたり、気が抜けません。「和と差の文章題」では、これまでに学んだ和と差に関する文章題をまとめて復習します。扱う文章題の種類が多いので、図法などを思い出すだけでなく「なぜその図法が適するのか」をしっかり考えて取り組みましょう。「平面図形(1)」の正六角形の分割・影については、入試頻出です。やや難解ですが、習得できれば確実に強みになります。それぞれの回の内容自体は既習の単元ばかりですが、テキストは侮れない内容になっています。これまで算数の学習が順調に進んできた人にとっては、非常に役立つ面が多い内容です。一方で、1回の内容に盛り込んだことがらが多く(これまでの学年の数週間分の内容)、算数で苦しんでいる人には負担が増したように感じられるかもしれません。5回に1回の総合回を上手くクッションにしながら出来る事・苦手な事をチェックしましょう。	6年						
課題の把握 と解決 策	チェック1 解決策 チェック2 解決策 チェック3 解決策 チェック4 解決策 チェック5 解決策	文章題の種類によって書くべき図がすぐに出できますか? 「なぜその図法が適するのか」をしっかり考え納得することが大切です 倍数の問題でベン図を使いこなせていますか? 「〇で割り切れて□で割り切れない数の個数は」といった問題を上手に整理できますね 日暦算を間違いなく計算できていますか? 「よく1違いになる」なら計算法のどこかにあやふやな部分があるはずです 図形の移動の問題では、移動のようす(軌跡)を図に書き込んでいますか? 書かなければ高い確率で「見落とし」が出てきます 図形の問題で一から自分で図形を書くことを面倒臭がっていませんか? 同じ図の中に複数の小問の様子を書き込むのではなく、小問ごとに図を書きましょう						
四谷大塚								
学習内容								
家庭学習 ポイント	2月の読解は生態系・科学といったテーマに沿って、説明文・論説文が1回、物語・小説が2回となっています。知識面は和語、慣用句、三字熟語などです。苦手なお子さんは、学習方法を見つめ直す良い機会です。各文章の本文が300字~1000字程増え、より一定時間内に長文を読む「体力」が求められています。ひとつひとつの選択肢も長くなり、これまで以上に細かく分析する力が求められます。発展は記述が増え、中には100字を超える問題もありますので、記述問題の「組み立て方」を6年生前半にしっかり身に付けることを目標にしましょう。「テーマ別」の読解が始まります。1年後の入試を見据え、中学入試頻出のテーマ、用語に慣れるチャンスと捉えましょう。2、3月は生態系、環境問題、勇気と正義、自立と別れといったテーマが並びます。知識面の復習もどんどん出てくるので、抜け漏れがあるとわかった分野は4、5年のテキストに戻り復習しましょう。	6年						
課題の把握 と解決 策	チェック1 解決策 チェック2 解決策 チェック3 解決策 チェック4 解決策 チェック5 解決策	物語文では、場面の展開と登場人物の心情の変化の関係を意識していますか? 心情の変化を場面の変化で表現するのは物語文の定番ですね 論説文の読解では、事実と筆者の考えを読み分けていますか? 論説文においては定番の読解法ですね 長い記述の組み立てが効率的にできていますか? 論説文であれば、上記の事実・筆者の考えのどちらを求められているかで記述する題材が決まります 文種ごとに「読み方」が定着していますか? 予習シリーズ6年上でほとんどの文種を復習します。確認していきましょう 一週間の学習サイクルができましたか? ひとまず5年生時同様に作って回してみて、ブラッシュアップしていきましょう						

四谷大塚	6年							
	理科							
学習内容	1回 植物 2回 地球・太陽・月 3回 電気・磁石							
家庭学習 ポイント	6年のテキストは5年までに習った内容を総復習する形となります。2月は「植物」「地球・太陽・月」「電気・磁石」と、様々な単元をおさらいしていきます。総復習+発展内容の学習という形で、1回1回のボリュームがかなり厚くなっているのは他教科同様です。これまで数回に分けて学んだ内容を1回の授業で消化するため「復習だから苦手な単元を1からやり直せる」と考えていると、大幅に期待はずれになりそうです。手薄だったと自覚のある単元については、5年生までのテキストで復習した上で臨むのもよいでしょう。「植物」では種子のつくり～根・茎・葉のつくり～花のつくりなどに始まり、光合成や蒸散、植物のなかま分けまで、全般です。「太陽・月・地球」でもそれぞれの天体に関する知識や計算問題まで、これまでに学習した全内容が1回の授業テーマになりますから、実質5年生のときの2～3倍のスピードで進んでいきことになります。特に3回の「電気・磁石」は苦手としているお子さんも多い分野だけに、あらかじめ5年生のときのテキストで復習して授業に臨むなど、お子さんそれが抱える課題を1回1回の授業に反映させて対応していきましょう。							
課題の把握と解決 策	チェック1	蒸散量の問題では、表を書いて考えていますか？	チェック					
	解決策	蒸散量の問題=表解 というくらい定番ですね。こういった「定番」を身につけるのが大切です	<input type="checkbox"/>					
	チェック2	光合成の実験問題で、葉を湯、熱したアルコールにつける「理由」を説明できますか？	チェック					
	解決策	定番問題です。実験の内容については必ずその「理由」まで押さえておくようにしましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック3	太陽の南中時刻、南中高度などを正確に求められますか？	チェック					
	解決策	求めるために必要な条件（南中時刻であれば日の出、日の入りの時刻）も言えるようにしましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック4	棒磁石を折ったときにできる磁極を理解していますか？	チェック					
	解決策	残った極の逆側が、残った極の逆の極になりますね	<input type="checkbox"/>					
	チェック5	電熱線（豆電球）の直列、並列と電気抵抗の大きさについて言葉で説明できますか？	チェック					
	解決策	「直列=電熱線が長い=電気抵抗が大きい・並列=電熱線が太い=電気抵抗が小さい」イメージです	<input type="checkbox"/>					
四谷大塚	6年							
	社会							
学習内容	1回 現代史（1） 2回 現代史（2） 3回 日本国憲法の三大原則							
家庭学習 ポイント	2月からは「現代史」2回のあと公民の学習に入ります。「現代史」では、戦後の日本について学習します。半年かけて学んできた歴史の学習が一段落します。現代史は覚えるべきことが多いですが、上位生は年号も含めて戦後の年表を何も見ずに書けるようにすることを目標としましょう。戦後史についてきちんと勉強しておきたい場合は、重要な首相を、それぞれの仕事と年号と共に整理していきましょう。優先的に覚える首相は吉田、鳩山、池田、佐藤、田中の5人、優先的に覚える年号は1950（朝鮮戦争勃発）,51（サンフランシスコ講和条約）,56（日ソ共同宣言）,64（東京オリンピック開催）,65（日韓基本条約締結）,72（沖縄返還・日中共同声明）です。「冷戦」という言葉の意味を理解した上で学習を進めましょう。公民分野では「日本国憲法」を学びます。公民を学ぶにあたっては、特に普段から実際の日本社会やニュースに触れ、ひとつの言葉から関連知識を連想していく学習が有効です。							
課題の把握と解決 策	チェック1	昭和戦後史について「何を覚えるべきか」はっきりとさせていますか？	チェック					
	解決策	主な年号とできごと、そのときの内閣を関連させて記憶しておくことが重要です	<input type="checkbox"/>					
	チェック2	戦後の世界を「冷戦」～国際連合を軸に理解できていますか？	チェック					
	解決策	世界地理の知識もある程度必要となります	<input type="checkbox"/>					
	チェック3	ポイントとなる総理大臣の名前を答えることができますか？	チェック					
	解決策	最優先で覚えるべき首相は吉田茂、鳩山一郎、池田勇人、佐藤栄作、田中角栄首相です	<input type="checkbox"/>					
	チェック4	5年生前半までの地理の内容を「放置」していませんか？	チェック					
	解決策	合不合判定テストにはどんどん出でます。苦手意識のあるお子さんは特に復習しましょう	<input type="checkbox"/>					
	チェック5	ふだんからニュースなどに触れていますか？	チェック					
	解決策	公民の学習だけでなく、入試の時事問題対策にも役立ちます	<input type="checkbox"/>					